

さくら新聞

発行者：NPO法人

下関深坂さくら友の会

下関市安岡町1-8-3

TEL:083-258-0143

FAX:083-258-5910

<http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura>

Eメール: misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp

皆様にはつつがなく
迎春の御事と心から
お慶び申し上げます。



副理事長
上 畠 政利

旧年は、東日本大震災により、いまだ避難生活を続けておられる被災者がいらつしやいます。新しい年は、復興施策の早期実現と平穩を祈らずにはいられませ

ん。さて、さくら友の会の御事始め、一月八日(日)の定例作業に参加して会員の皆々様と新年の挨拶を交わすたびに、すがすがしいめでたき春を感じた次第です。実は、旧年一月九日の定例作業には風邪のため欠席せざるを得ませんでした。新年はお蔭様でそこそこの体調をもって参加することができました。健康であることは、ありがたきかなと、後期高齢者に達した今、体力自信過剰にならぬよう心がけねばと思っております。ちなみに、旧年一月九日の日記には、「背中を冷やさない。保温に心掛けること。」と記しております。さて、今回の定例作業

は、花が咲かない「テングス病にかかっている枝」を切除する労働作業でした。高いところにある枝を切るのは、我が、さくら友の会が保有する現在の文明の利器をもつても簡単なものではない。高枝切り鋸(鋸)の届かない枝は、手の施しようがありません。ただ、見上げるばかり、あごの疲れの出ない前に諦めることとなります。足場のよくない斜面は、五体を安定させ、そのまま保持しなければならぬ。短時間ですが難儀な技です。樹に登るのは、得手、不得手があり、Cさんは不得手、得手のMさんは、軽やかな身ごなしで登って切除されたのはご立派、しかし、ごく一部。危険な作業であります。テングス病にかかっていることが明らかな場合は別として、疑わしい枝を多々見受けま

す。樹木医不在の現場ではAさんが、高枝鋸で切除しようとする、Bさんは、それは違う(テングス病にかかっている枝)と言う。見立てが一致しないために切れない場面もありました。Cさんいわく、医者でも見立てが違うことがあるのだから、と。各所で切除した枝を一箇所に集め一抱えほどに束ね積み上げた量は、トラック一台に積載するほどの多大な量でありました。しかし、テングス病に

シノ、戦後の復興の象徴となつたソメイヨシノ、間隔を狭めて植えられたソメイヨシノ、テングス病にかかりやすいソメイヨシノ、地球温暖化で危険にさらされているソメイヨシノ、等々、「寿命が六十〜八十年」と言われる一方で名所の弘前公園(青森県弘前市)などには樹齢百二十年以上の樹木が存在していること



かかっている既存の桜を含めますと今回切除したのはほんの一割にも満たないものと思われま

す。「寿命六十〜八十年」説は科学的に根拠のなき俗説だから良好な環境と人が適度な手入れを継続すれば、いつまでも生育するといわれております。危機の脱出は私たちの行動にかかっていると

皆々様そのつもりで桜を育てましょう。

認定NPO法人

認定NPO法人と言う言葉を耳にするようになった。NPO法人を整理したいらしい。適正な資格を有するNPO法人を認定すると言うものだ。会計基準があり、一定の方式で会計処理をして、それを、デジタルデータで報告して、お役所が、インターネットで、公表するとのこと。寄付をする場合に、NPOの活動が分りやすい。また、納税する場合に、納税額の一部の使途を認定NPO法人に指定することができると

西川浩子理事は、故城戸哲郎理事から「読んでいて」と言つて手引書を渡されたが、読んでいる暇がない。城戸さんはそのまま逝つてしまった。どうしたものか頭をずつと抱えている。その会計の講習会に西川浩子理事と野口周三理事が参加してきた。会計処理そのものはそう難しいとは思わなかったが、この会計処理をする他に、補助金の支給団体が指定する別様の会計処理が従来のままだと、手間が増えるだけだ。

桜四方山

桜といえば花しか頭に浮かばないのが我々だ。花見で一杯。せいぜい浮かん

で桜餅。桜チップで燻製などと頭に浮かべば上等な方。桜染めは草木染の一種で桜の木の枝を細かくして煮る。何日も煮たり冷ましたりするよ

うだ。桜の枝も、先が少しピンクに染まりかけた蕾をつけた枝がよいとは人間国宝の志村ふくみ先生の秘術らしい。どうしても桜から桜色に染めたいと言う執念がなければ、到底たどり着けない研究だ。染め上がった絹糸で織った布は素晴らしいものらしい。宮城大学ではソメイヨシノの枝や葉で染色実験している。

現在そういう実験研究が行われていると言うことは、まだまだいろいろ可能性があると

言うことも知れない。今年の桜研修旅行は平泉、角館などの東北地方だ。角館には有名な樺細工(桜皮細工)がある。茶筒や小箱など、桜の皮がどうしてあれほど見事な光沢を帯びるのか、行った人は技術を盗んできてほしい。桜の材は、家具や、お盆、額縁などに適していると聞

く。そんな研究もしてみたい。